

国語科学習指導案

日時 平成22年10月13日(水)

学級 洋野町立中野中学校 3年A組22名

会場 3年A組教室

授業者 小野 要

1 単元名(教材名) 古典を親しむ「夏草—『おくのほそ道』から」(松尾芭蕉)

2 単元(教材)設定の理由

(1) 教材や指導価値について

本教材は、国語科第3学年の目標「(3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。」ために「C読むこと」の指導内容「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「(1) ア伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 歴史的な背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。」に力を入れて指導しようとするものである。

本時の教材は、松尾芭蕉の『おくのほそ道』という紀行文である。俳諧の芸術性をさらに高めようと旅に出る芭蕉。旅の厳しさの中に身を置くことで、芸術として高めるようとする。また、故人・歌枕に歌われる場所へのあこがれ、それぞれの場所での心打たれたことを表している「俳句」、それぞれが中学生にも共感できる生き方と思われる。難しい表現もあるが、何度も読むことで芭蕉のもの見方・感じ方・考え方に触れさせることで、古典に親しむ態度をはぐくむのに適している教材と考える。また、今後の古典作品の読書への喚起にもつながると考える。

(2) 生徒の実態

生徒は第1年時、「いろは歌」で音読から、古典の言い回しに親しんだ。「蓬萊の玉の枝」では自分たちの知っている「かぐや姫」と比べながら、古典のおもしろさをや古語・歴史的仮名遣いの言語についても学習してきた。第2年時は、「枕草子」でももの感じ方について考えた。「扇的」では冒頭文の暗唱を行ったり、与一が射る場面の表現を学習したりした。

第3年時の「君待つと一万葉・古今・新古今」ではできるだけ、音読を設けずらすらと読めるように、学習を進めた。しかし、古語や助動詞の意味、助詞の省略など古典特有の表現に、難しさを感じている生徒も多い。また、古典に限らずある程度の文節で区切って音読することを苦手と知る生徒、書くこと自体を苦手としている生徒も存在している。

学年全体の傾向として、県学習定着度状況調査では、1年時は県平均から「- 6,9」特にも書くことは「- 22,2」、2年時は平均「- 6,5」、言語事項が「- 11,4」ポイント下回っている。今年度の全国学力状況調査では国語Aが「- 0,1」、国語Bが「- 2,9」ポイントという結果であった。そこから、書くことの力、言語事項の力が不十分であることが課題である。

3 「自ら学び自ら修める生徒の育成」を実現する指導構想

まず、生徒が意欲を持って学習に取り組むことができるように、前もって疑問やみんなで考えたことを書かせることにした。それをもとに学習活動を構築し、意欲をもって取り組ませるようにしたい。「シラバス」に基づいて、何を学ぶのか、何を身につければいいのかを受け止められることで学習の見通しをもたせ、さらに意欲を喚起し、自己評価したりや復習に役立たせたい。そうすることで、本校の目指す「自ら学び自ら修める生徒の育成」につながるものと考えている。

4 単元の指導目標

- (1) 作品に表われているもの見方や考え方を理解し、自分のもの見方や考え方を広くすることができる。 【関心・意欲・態度】

(2) 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

【読むこと (1) エ】

歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

【伝統的な言語文化に関する事項 ア(7)】

(3) 歴史的仮名遣いや古語、漢文調の言い回しについて読むことができる。

【伝統的な言語文化に関する事項 イ(7)】

5 単元の評価規準

国語への意欲・関心・態度	話す・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能
・課題を解決するために表現に注目して、意欲的に考えようとしている。			・現代語訳を用いながら、内容を理解し、先人へあこがれ、旅に対する思い、生き方をとらえ、自分のものの見方を広げたり深めたりしている。	・歴史的仮名遣いの法則、古語の意味、漢文調の言い回しが理解できている。

6 単元(教材)の指導計画と評価規準

時	学習目標	評価規準	評価方法
1	音読し、大まかな内容をつかむことができる。	・課題を解決するために表現に注目して、意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・現代語訳と本文を比べて大まかに内容をつかんでいる。 ・旅に対する思いをとらえている。 【読むこと エ】 ・歴史的仮名遣い、古語の意味、漢文調の言い回しがわかる。【読むことエ 伝統的な言語文化に関する事項イ(7)】	記述の確認 発言の内容
2 本時	作者のものの見方や感じ方をとらえることができる。	・課題を解決するために表現に注目して、意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・作者の涙の意味を指摘できている。 【読むこと エ】	記述の確認 発言の内容
3	作者のものの見方や感じ方をとらえることができる。	・課題を解決するために表現に注目して、意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・作者の平泉での思いを指摘できている。 【読むこと エ】	記述の確認 発言の内容
4	作者のものの見方や感じ方から自分のものの見方や感じ方を深めることができる。	・課題を解決するために表現に注目して、意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・先人と芭蕉と自分たちの関係から、考えたことをまとめている。 【読むこと エ 伝統的な言語文化に関する事項 ア(7)】	記述の確認 発言の内容

7 本時について

(1) 本時の目標

叙述から芭蕉の心情とらえ、文章にまとめることができる。

(2) 本時の指導構想

本時は、「シラバス」を用いて学習の見通しを持たせることから始めたい。何を学習するのか、何を身につければよいのかを提示した上で、学習を進めていきたい。

前時の大まかな内容の読み通りの復習から授業を進め、旅への思いや何に芭蕉が心打たれて感涙を流しているのか考え、とらえることで時を越えての人間の普遍的なものの見方や考え方を、とらえさせたい。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	学習活動における具体的評価規準	評価方法	○B「おおむね満足できると判断される」 ☆Bに到達しない生徒への手だて
国語の関 心・意欲 ・態度	芭蕉の心情に迫ろうとしていたか。	記述の確認 発言内容	○涙を流した状況や場面から心情に迫ろう としている。 ☆場所や見ているものから考えさせる。
読むこと	何に対して芭蕉は涙を流したのかを 表現している。	記述の確認 発言内容	○人間が作ったもの、人間の営み等の言葉 を使って表現している。 ☆対立表現は何が対立しているか着目させ る。

(4) 本時の展開

段階	学 習 活 動	学 習 内 容	時間	○研究に関わる留意点 ■教具
導 入 9	1. 「シラバス」を見て学習 の見通しをもつ。	・見通しを持つ	2	○シラバス配布 ■学習シート配布
	2. 大まかなあらすじの確認 をする。	・前時の振り返り	4	
	3. 音読する。	・音読	2	
	4. 学習課題をつかむ。	・学習課題の確認	2	
	【学習課題】 芭蕉の涙の意味は何だろうか。		2	
展 開 38	6. 「何に対して」涙を流し たのか指摘する。 (対立表現をから探す)	・芭蕉の感動をとらえる	6	■国語辞典（必要に応じて） 「しばらく」など ・見つけられない生徒には 今までの対立表現の学習を 振り返らせる
	秀衡が跡 金鶏山 高館 北上川 功名 ⇄ 衣川 兵 ⇄ 夏草 兼房 卯の花			
	7. グループで交流する。	・芭蕉の感動に迫る	10	
	8. 全体で交流する。	・芭蕉の心情に迫る	10	
	9. 芭蕉の涙の意味をを文 章にまとめ発表する。	・心情のまとめ	8	
終 末 4	10. 人間の営みのはかなさ について考える	・作者のものの見方、考え方を とらえる	4	キーワードを板書する キーワードから再度考えさ せる
	11. 自己評価をする。	・学習の振り返り	1	○シラバスに記入
	12. 次時の学習内容を知る。	・次時の学習の予告	1	

(4) 本時の展開 (その2)

段階	学 習 活 動	学 習 内 容	時間	○研究に関わる留意点 ■教具												
導 入 7	1. 「シラバス」を見て学習の見通しをもつ。	・見通しを持つ	2	○シラバス配布 ■学習シート配布												
	2. 大まかなあらすじの確認をする。	・前時の振り返り	4													
	3. 学習課題をつかむ。 【学習課題】 芭蕉の涙の意味は何だろうか。	・学習課題の設定	2													
	4. 学習課題を一斉に読む。	・学習課題の確認														
展 開 39	5. 音読する。	・音読	3	・ことばへの注目。 ■国語辞典 (必要に応じて) 「しばらく」など ・見つけれない生徒には今までの対立表現の学習を振り返らせる												
	6. 「何に対して」涙を流したのか指摘する。 (対立表現をから探す)	・芭蕉の感動にとらえる	6													
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>秀衡が跡</td> <td>金鶏山</td> </tr> <tr> <td>高館</td> <td>北上川</td> </tr> <tr> <td>功名</td> <td>衣川</td> </tr> <tr> <td>兵</td> <td>夏草</td> </tr> <tr> <td>兼房</td> <td>卯の花</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平泉</td> <td>義経の死</td> </tr> </table>	秀衡が跡	金鶏山		高館	北上川	功名	衣川	兵	夏草	兼房	卯の花	平泉	義経の死		
	秀衡が跡	金鶏山														
	高館	北上川														
	功名	衣川														
	兵	夏草														
	兼房	卯の花														
	平泉	義経の死														
	7. グループで交流する。	・芭蕉の感動に迫る	10													
8. 全体で交流する。 【まず】 に着目する。	・芭蕉の心情に迫る	10														
9. 人間の命や営みのはかなさを考える。	・作者のものの見方、考え方をとらえる	5														
10. 芭蕉の涙の意味を文章にまとめ発表する。	・まとめを発表	5														
終末	11. 自己評価をする。	・学習の振り返り	3	○シラバスに記入												
4	12. 次時の学習内容を知る。	・次時の学習の予告	1													